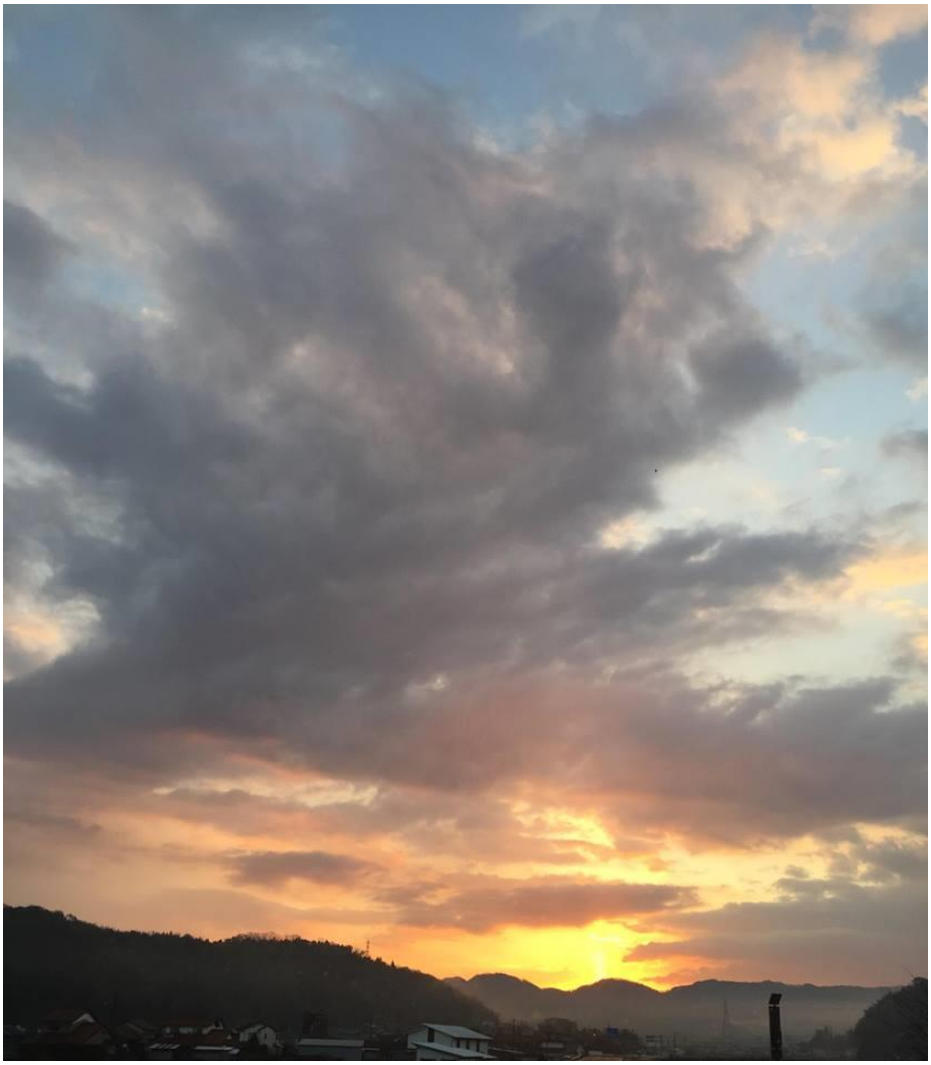
「被災地の子どもたちに音楽・芸能を届けよう！」プロジェクト２０１７

事業報告書



公益社団法人日本芸能実演家団体協議会

当協議会では、東日本大震災直後から文化芸術を通じた震災復興プロジェクト事業を実施し、被災地の自治体等と協定を結ぶなどして地域との結びつきを強めてきました。
2017 年度は、会員団体および会員団体傘下の芸術団体、実演家で、東北３県の学校などを訪問して音楽や芸能を届ける活動をしたいという企画提案を公募し、そのうち５つの団体に対し、移動費等を支援しました。ここに 2017 年度の活動をご報告いたします。

●日本作編曲家協会によるラルト・コンチェルトのコンサート

5 月 27、28 日の両日、ギター、ヴァイオリン、馬頭琴の組合せによるラルト・コンチェルトのコンサートが、大船渡の高齢者施設などで開催されました。「スーホの白い馬」の読み聞かせと音楽を組み合わせた「馬頭琴による音楽物語」のほか、モンゴルの伝統音楽や、馴染みのあるクラシック楽曲、歌謡曲、文部省唱歌など、心に染み入る音楽が演奏されました。

会場のひとつとなったハネウェル居場所ハウスは、復興支援の一助にと、アメリカの企業「ハネウェル社」の社員の方々からの募金により建設された施設です。「国内外からの支援に心から感謝していると同時に、できるだけその恩返しをしたい」という被災者の気持ちを生かし、震災を生き延びた高齢者を勇気づけ、地域の高齢者が復興の過程で「頼りにされる存在」となっていくように、居場所ハウスは多様な世代の人々をつなげる役割を担っていく拠点として、現在は末崎町の住民を中心とする特定非営利活動法人居場所創造プロジェクトが運営を担っており、赤ちゃんからお年寄りまで、誰もが気軽に立ち寄れ、思い思いに過ごせる場所づくりが目指されています。ラルト・コンチェルトのコンサートも、地域の人たちが集まる機会として企画されました。

コンサートに集まった皆さんからは、「生演奏を聴けるなんて、とても嬉しかった」「家族を津波で亡くしましたが、仮設住宅に入居し、新しい方との縁をいただき、『ふるさとは今も変わらず』の歌や『ふるさと』の歌を歌うと、みんなで力を合わせて生きていこうと思いました」「生まれて初めて馬頭琴という楽器を見て、びっくりしました。子どもの学校の教科書に載っているお話を音楽と一緒に聴けて楽しかったです」といった感想をいただきました。

コンサート後は、演奏者と参加者の懇談会が開かれましたが、訪問した演奏家たちは、「皆さんがとても前向きで、こちらがエネルギーを貰いました」と感嘆していました。被災地の方々が音楽によって元気づけられるだけでなく、被災地のエピソードが、後世にも語り継がれ風化することのないように、そんなつながりを紡ぐ一助となった活動でした。

また、長洞仮設公民館での演奏は、同公民館の閉館式の一環として行われました。仮設住宅から移転していく人が増え、長洞仮設住宅団地の住人が減少した結果の閉館ですが、これまでの入居者が再会する機会となり、元住民たちが近況報告をしたり、思い出話を交わしたりしつつ、最後のイベントとしてラルト・コンチェルトのコンサートを楽しんでくださいました。

写真は古民家を改修して建設されたハネウェル居場所ハウスでの演奏の様子

５月 27 日(土)　14:00-15:00
成仁ハウス百年の里
（大船渡市立根町字宮田 9 番地 1）
16:00-17:00
ハネウェル居場所ハウス
（大船渡市末崎町字平林 54-1）
５月 28 日（日）12:00-14:00
長洞仮設公民館
（大船渡市猪川町字長洞 62-1）

●たかはしべん コンサート

たかはしべんさんは、子どもの心に寄り添い、家族、いのち、人権、平和の大切さなどを、子どもたちの身近な言葉で歌い続けているシンガー・ソングライターです。全国を旅しながら歌っていますが、とりわけ東日本大震災後は、被災地の保育園や小学校を、繰り返し訪れています。

今回コンサートを行った若桐保育園は、２回めの訪問です。「べんさんを覚えている人？」と尋ねたら、みんな手を挙げてくれました。「おはよう」「いいの」「笑って平和」を、子どもたちと一緒に歌いました。「おまじない」の歌の中では、「悲しいときはギュッてして　お友だちをギュッてして　先生をギュッてしてね」と、べんさんが語りかけると、みんな笑顔に変わりました。

田野畑小学校は、３回めの訪問です。子どもたちは一昨年の公演を覚えていました。1～２年生は若桐保育園の時に歌を聴いていますから、やはり、べんさんの歌を聴いています。後日、担当の先生から、べんさんのコンサートのことを書いた学級通信が送られてきました。「おばあさんがハエをのみこんだ」歌がとっても印象深かったらしく、６年生の男子が、休み時間に「おばあさんが」「おばあさんが」と、繰り返していたそうです。「復興の応援をいただく歌、とてもおもしろくてゆかいな歌、考えさせられる歌など、充実した時間を過ごすことができました。『楽しい思い出は、生きる力になる』というべんさんのお言葉が心に残っていて、学校でも子どもたちに生きる力をつけるために、楽しい思い出をたくさん作るように努めていきたいです」と先生からメッセージが寄せられていました。

今回、べんさんと田野畑村をつないでくれた復興対策課の佐藤さんは、「この度もたいへんありがとうございました。息の長いご支援に感謝いたします。子どもたちの、あの大きな歌声と、笑い声と、笑顔が、大人にとっても、何よりの喜びと元気になるなぁとつくづく感じました。また、ぜひ田野畑村にお越しいただければと思います」とメッセージをくださっています。

６月 12 日（月）午前　岩手県田野畑村立「若桐保育園」
　　午後　岩手県岩泉町立認定「いわいずみこども園」
６月 13 日（火）岩手県田野畑村立「田野畑小学校」

●オペラシアターこんにゃく座コンサート

日本語のオペラ作品をレパートリーとし、恒常的にオペラを上演する専門のオペラ劇団である、オペラシアターこんにゃく座。その座員によるコンサートが、盛岡保育問題研究会の招へいで、盛岡市内の保育園ホールで開催されました。会場に集まったのは、同研究会の保育士４５名のほかに、盛岡市、北上市、滝沢市、雫石町の保育園や岩手音楽教育の会や地元合唱団など、小学生や保育園児 4～50 名を含む 130 名くらいの人々。ゼロ歳児から上は 80 代までの幅広い年齢の方が、終始なごやかな雰囲気の中でコンサートを楽しみました。生の歌声とピアノの音色が会場に響き渡り、約 1 時間弱のコンサートでしたが、大笑いする曲もあれば、じっくりと聞き入る曲等々、バラエティに富んだプログラムを聴いて頂きました。時に目を潤ませて聴いて下さる方もいらっしゃいました。最後は会場の皆さんとオペラ『森は生きている』の中から 2 曲を一緒に歌いました。

コンサート終了後、短い時間ではありましたが、盛岡保育問題研究会の皆さんと出演者のメンバーで交流会をおこない、コンサートの感想などを聞かせて頂きました。音楽の楽しさを心と体で感じて頂き、今後の保育士さんのお仕事にも生かして頂けるのではないかと思います。音楽を中心に人々が集まり、かけがえのない時間を共有することができました。

6 月 24 日(土)　14:00-15:00　本宮保育園ホール　（盛岡市本宮 4-38-10）

●神奈川フィルハーモニー管弦楽団による東北復興支援コンサート

９月１日から３日にかけて、神奈川フィルハーモニー管弦楽団のメンバーによる木管五重奏の演奏者たちが、宮城県南三陸町の仮設住宅や高校を訪れ、コンサートや演奏指導に精力的に取り組みました。

１日午後、志津川高等学校に到着すると、まずは「志津川高校吹奏楽部ワークショップ」。体育館で、翌日以降に行われる文化祭に備えてのリハーサルと、吹奏楽指導が行われました。指揮の堀氏、神奈川フィルの団員が吹奏楽部の中に入り、和気あいあいと指導をして、子供達もプロの音色に感動しているようでした。夜には「沼田きぼうコンサート」。志津川東復興住宅第一集会所で、コンサートを開催しました。遅い時間帯にもかかわらず、コンサートを楽しみにして頂いていたようで、予想を越える住民の皆様が来場しました。指揮者の堀氏もタクトをマイクに変え、聴衆も一緒になって、笑いあり大合唱ありと盛り上がりました。

翌日２日は、志津川高等学校の文化祭「旭ヶ浦祭」の日です。この日は、学校関係者のみが参加ですが、９時 25 分から、部活動の紹介も兼ねたコンサートの中で、神奈川フィルの木管五重奏の演奏と高校吹奏楽部との共演も行いました。そして、11 時からは、志津川西住宅第一集会所にて「おしゃべりコンサート」。ここの集会所では昨年も堀氏の司会によるコンサートを開催していたので、今年も堀氏の司会を楽しみにしていた方が多々いらっしゃったようで、終始明るい雰囲気の中で軽妙なトークと指揮で、住民の皆様が和んでいました。午後には、志津川地区の隣の歌津地区にある伊里前復興住宅集会所を訪問しました。ここでのコンサートは初めてだったので住民の皆様は、最初は緊張の面持ちで構えていた向きもありましたが、堀氏の盛り上げで次第に和み、アンコールの「北国の春」では住民の一部の方が曲に合わせて体操をして、木管五重奏と聴衆が一体となりました。

最終日は、朝から再び志津川高等学校へ。この日は「旭ヶ浦祭」の一般公開日。午前、午後の２回、吹奏楽部との合同演奏と、神奈川フィル木管五重奏の演奏を披露しました。ここでも堀氏がお客様もトークに巻き込み、大いに盛り上げていました。

９月１日（金）「志津川高校吹奏楽部ワークショップ」　　志津川高等学校
９月１日（金）「沼田きぼうコンサート」　志津川東復興住宅第一集会所
９月２日（土）「旭ヶ浦祭」における合同演奏（学校関係者）　志津川高等学校
９月２日（土）「おしゃべりコンサート」　志津川西住宅第一集会所
９月２日（土）「おしゃべりコンサート」　伊里前復興住宅集会所
９月３日（日）「旭ヶ浦祭」における合同演奏（一般公開）　志津川高等学校（午前）
９月３日（日）「旭ヶ浦祭」における合同演奏（一般公開）　志津川高等学校（午後）

●人と人をダンスでつなぐ、お互いに踊り合う絆プロジェクト

一般社団法人日本ジャズダンス芸術協会は「人と人をダンスでつなぐ、お互いに踊り合う絆プロジェクト２」と題して、10 月 29 日に、福島県いわき市内の２か所で支援事業を行いました。ストレッチ運動から、ジャズダンスや盆踊りなど、お互いに踊りあうことで交流するプロジェクトで、昨年度の２月に続いて２回目です。参加したのは、同協会の北浜竜也理事長、杉本亜利砂副理事長が東京から、地元の実演家として神永宰良副理事長と、伊東憂美 NPO 法人ダンス博副理事長、そしてダンスエクスプレション D.S.の小学生チームです。

豊間地区の復興住宅の集会所では、自己紹介リレーをしたのちに、椅子に座ってできるストレッチ運動を神永氏が指導。次いでジャズダンスの説明を杉本氏が行い、北浜氏がジャズダンスを披露しましたた。地元の参加者は大人が 27 人と子どもが５名ほど。その後、小学生チームのダンス披露がありました。地元参加は高齢者が多く、「心が暖かくなった」「パワーをいただいた」など、顔を緩ませながら発言されていました。続いては、地元の盆踊りを全員で輪を作り踊りました。最後は、「ふるさと」を伊東氏が中心となり歌って会を締めくくりました。

続いて、いわき芸術文化交流館アリオス稽古場に場所を移しました。ここでは、小学生 35 名に中高生が 18 名と、参加者は子どもたちです。

コミュニケーションを図るため、ダンス経験者や未経験者も一緒に、杉本氏がストレッチを行いました。ダンスの可能性を神永氏が熱弁し、北浜氏がステップやペアダンスを紹介しました。ダンス未経験者も、「わかりやすう説明だった」「初めてですが、ダンスが踊れて楽しい」など、一緒に活動し、杉本氏の演出で、みんなで 1 作品仕上げました。

10 月 29 日（日）	13:00-15:00	豊間地区復興災害住宅 （福島県いわき市豊間字榎町 202 の 2）
10 月 29 日（日）	16:00-18:00	いわき芸術文化交流館アリオス稽古場 （福島県いわき市平字三崎１−６）

芸団協では2011年度より＜震災復興に文化芸術を基金＞を設置し、寄付を募っています。これまでに多くの方々からご寄付をいただき、震災復興プロジェクトの活動に充当させて頂きました。2016年度には、株式会社 エス・シー・アライアンス様をはじめ、多くの方々からご寄付をいただきました。改めて御礼申し上げます。

これまでの活動については、下記サイトをご覧ください。
http://bunka-tsunagu.blogspot.jp/
今後とも、皆様のご支援をお願いいたします。ご協力いただける方は下記口座へお振込みください。

＜震災復興に文化芸術を基金＞
みずほ銀行　支店名：新宿新都心支店（209）　普通　口座　１４９４７５５
口座名義　公益社団法人日本芸能実演家団体協議会　震災復興に文化芸術を基金
シャ）ニホンゲイノウジツエンカダンタイキョウギカイ
シンサイフッコウニブンカゲイジュツオキキン

【お問合せ】公益社団法人日本芸能実演家団体協議会［芸団協］
163-1466　東京都新宿区西新宿 3-20-2　11 階
tel:03-5353-6600　fax:03-5353-6614
E-mail:support@geidankyo.or.jp
URL:　http://www.geidankyo.or.jp/
160-8374　東京都新宿区西新宿 6-12-30
芸能花伝舎　2F
tel:03-5909-3060　fax:03-5909-3061